

11pt 中央揃え  
名字と名前の間は半角スペース  
所属の括弧は全角  
発表者が複数の場合は、  
中黒（・）で横に続ける

# 発表タイトル —サブタイトル— 一行あけ

共に明朝体/ Times New Roman  
16pt ボールド体 中央揃え  
申し込み時のタイトル・サブタイ  
トルから絶対に変えないこと

姓 名 (所属) ・ 姓 名 (所属)  
一行あけ

キーワード：キーワード A, キーワード B, キーワード C  
一行あけ

キーワード3つ  
全角カンマ区切り  
11pt 中央揃え

## 1. はじめに

これは予稿集に掲載される原稿のテンプレートです。以下の執筆要領に従って書くか、もしくはこの文書を保存して使用してください。テンプレートの発表タイトルや発表者名、見出し、本文などそれぞれの場所にカーソルを合わせてそのまま入力すれば、簡単に共通のスタイルで原稿ができるようになっています。不要な部分は削除してください。

セクション間是一行あけ

## 2. 執筆要領

見出しはボールド体 (ただしサブ見出し ((1) など) はボールドにしない)

### (1) 書式

原稿は PC (ワープロソフト) を用いて作成してください。和文、英文ともに A4 判用紙を使用し、図、表、引用文献全てを含めて 2 ページとします。マージン (余白) は上下左右すべて 25mm とし、基本フォントは明朝体 (和文)、Times New Roman (英文・英数字) とし、基本文字サイズは 11 ポイントとします。また、1 ページは 38 行、各行の行間を 1 行とし (行間の調整はしないでください)、各行の文字数は全角で 41 文字、インデントは、和文の場合は全角 1 文字空白スペース、英文の場合は半角 3 文字空白スペースを基本としてください。ファイル提出の際には、Word と pdf の両方をご提出ください。執筆要領から逸脱している場合、編集委員会で修正、あるいは執筆者に差し戻しの上、再提出を依頼することがあります。

### (2) 項目

原稿には次の項目を含めてください。

- タイトル： 16 ポイントのボールド体。中央揃え。2 行以上にまたがる場合は、行間が広くなりすぎないように注意。サブタイトルは 16 ポイントのボールド体、前後をダッシュ (—) で囲み (英文ではコロン (:)) を使用)、発表タイトルの次の行から始める。
- 発表者情報： 11 ポイント。中央揃え。タイトルから 1 行あけて (11 ポイント、以下行をあける場合は同じ) 氏名 (所属) の形式で。複数の場合中黒 (・) で横に並べる。
- キーワード： 11 ポイント。中央揃え。発表者情報から 1 行あけて、カンマで区切る。
- 本文： 11 ポイント。キーワードの下 1 行あけて本文を始める。見出しはボールド体にする。(1) 以下などのサブ見出しはボールド体にしない。以下和文での句読点は (、) と (。 ) を基本とする。
- 引用文献： 11 ポイント。原稿内で引用した文献の一覧。

### (3) 提出、問い合わせ先

提出の際には、次の項目に注意してください。

- 原稿の提出には京都研究大会ウェブサイト上の予稿集原稿提出フォームを使用し、ファイル (Word と pdf) を添付して、提出すること。
- ファイル名は、半角小文字で発表 (代表) 者の名字と名前を使用すること。例えば、「京都太郎」の場合、ファイル名は、kyototaro.doc(x) ・ kyototaro.pdf となる。
- 締め切りは、6 月 22 日 (金) 23 時 59 分 (日本時間)。送信後、受領した旨の返信メールが自動送信されるので確認のこと。ファイルを送信した 2 日後になっても受領のお知らせメールが届かない場合、また、その他予稿集原稿に関する質問等がある場合は、京都研究大会ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」から問い合わせのこと。

### (4) その他

- 研究発表においては、「結果は、当日口頭にて発表する。」という要旨の構成は避け、「研究結果」もはっきり記述されている要旨の構成を心掛けること。

- ・ 様式不備や誤りのないよう、十分に注意すること(英文の場合要ネイティブチェック)。
- ・ タイトル・氏名(所属)・予稿原稿の使用言語[日本語/英語]は、口頭発表時の使用言語に準じること。所属の書き方は下記参照。

◆ 教員(小・中・高・大の専任または非常勤)の場合

- ※ 学部名やセンター名などの詳細な所属の記載は不要。
- ※ 非常勤の場合でも(非)とは記載しないこと。

A. 県立・市立, 都/府立 などは都道府県名を含めて記入:(a)~(c) 参照

(a) 公立小学校・中学校の場合

兵庫県神戸市立こうべ小学校

Kobe Elementary School, Kobe, Hyogo

兵庫県神戸市立神戸生田中学校

Kobe-Ikuta Junior High School, Kobe, Hyogo

(b) 公立高等学校の場合

京都府立山城高等学校 Yamashiro Prefectural High School, Kyoto

京都市立堀川高等学校

Kyoto Municipal Horikawa Senior High School (市立の場合注意)

東京都立戸山高等学校

Tokyo Metropolitan Toyama High School (都立の場合注意)

(c) 公立大学の場合

京都府立大学 Kyoto Prefectural University

B. 国立や私立の場合、都道府県名は不要:(d)~(e) 参照

(d) 国立大学や私立大学の附属学校等の場合 ※学校発表の英語表記にする。

大阪教育大学教育学部附属池田中学校

Ikeda Junior High School Attached to Osaka Kyoiku University

清風高等学校 Seifu Senior High School

(e) 国立大学や私立大学の場合

滋賀大学 Shiga University / 関西学院大学 Kwansai Gakuin University

◆ 大学院所属の専任・特任教員・非常勤の場合

立命館大学大学院 Graduate School, Ritsumeikan University

◆ 大学院生(修士・博士課程)の場合 ※修士課程と博士課程の区別はしない。

神戸大学大学院生 Graduate School, Kobe University

◆ 現職教員で、かつ大学院生である場合

勤務先か所属大学院名のどちらか一方のみ(発表申込時に入力した所属と同一のもの)を記載することとし、併記しないこと。

一行あけ

### 3. 謝辞

謝辞を入れる必要がある場合は、引用文献の前に置いて見出しに連番を振る。

一行あけ

### 4. 引用文献

*Publication Manual of the American Psychological Association.* (American Psychological Association, 最新版) (第6版 2009年)に準拠する。文献は本文中に記載されたものに限る。2行以上にわたる場合は、2行目以降はぶら下げ全角2文字とする。

【記載例】※日本語文献を*A*イェ順で出し、続けて英語文献を*AL*アルファベット順で出す。

門田修平 (2015). 『シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学』 東京: コスモピア.

吉田晴世 (2010). 「ポッドキャストと語学教育」『大阪教育大学英文学会誌』55, 51-66.

Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1, 1-47.



2行以上にわたる場合は、2行目以降はぶら下げ全角2文字